

領土問題 福島の現状

第31回歴教協中間研究集会 で学びあいましょう

歴教協研究担当

第31回中間研究集会は、1月13日(日)大塚ラパスホールで開催します。今回は、領土問題と福島の現状の二つを取り上げます。

領土問題では、いま、竹島・尖閣などをどうとらえ、どう取り組んでいくか、社会科教育に携わる者としてしっかりと学んでいくことの重要性が増しています。

また、千葉大会で掲げた「地域に根ざす一大震災・原発・地域再生を見すえて」の課題に引き続き取り組みます。

以下、それぞれの概要を紹介します。

テーマⅠ 領土問題をどうとらえ、どう教えるかー東アジアの平和構築のために

報告① 歴史学から見た領土問題

歴教協委員長 山田 朗

*竹島と尖閣の問題を中心に、歴史的な経緯から考察します。「先占の理」を取り決めた国際法については、そもそもこの国際法がどういう問題をもっているか、国際法の歴史的な性格も検討します。

*サンフランシスコ講和会議でどう取り上げられどう決められたか、ということを重視します。それに対して日本政府がどう臨んできたか、そこにどういった問題があったかも重要なポイントです。サンフランシスコ講和条約、カイロ宣言、ポツダム宣言などの参考資料を用意します。

報告② 竹島・尖閣問題と教科書を授業づくり

歴教協常任委員 桜井千恵美

*学習指導要領は領土問題を学ぶよう指示しています。2012年の教科書から記述が変化し、たとえば育鵬社公民教科書では「本文」で扱い、政府の政策を支持する方向への誘導を鮮明に打出しています。中学の教科書の記述を紹介します。

*『歴史地理教育』2013年2月号に掲載する若い教員の領土問題の実践を、紹介予定です。

分散会

参加者をいくつかのグループに分けて、「領土問題をどうとらえ、どう教えるか」をテーマに話し合いをします。話し合いの結果を全体で紹介し交流します。

テーマⅡ 福島原発事故から1年10か月

特別報告 原発事故から1年10か月目のフクシマの人々

福島県歴教協 佐藤 誠

*いまフクシマでは、あの一連の原発事故がまるで遠い昔の出来事であったかのように錯覚させ、復興元年の名の下に「普通」で「日常」の生活に戻そうという事態が進行しています。一方で、全国では原発ゼロ支持が7割であるのに、福島県では実に9割に達しています。「普通」の「日常」に戻そうという動きと、それに対抗する動きが拮抗しているのが現在の実態です。子どもたちのようす、「分断」される県民の状況などを報告します。

*どんなにきびしくても事実を事実としてみつめ、子どもたちと、全国の仲間と、ともに進んでいきたいと思っています。

*『歴史教育・社会科教育年報』2012年度版(三省堂 2012.12刊行)をご参照ください。

地図と時程など、最終面<8ページ>参照